
4. (資料) 「スポーツ産業の現在」

尾崎 正峰

今回の合宿の討論資料として提出したもののタイトルと出典は以下の通りである。

- (1) 拙稿「スポーツ産業の現状と社会体育」『社会体育に新しい風を1987』1988.6
- (2) 拙稿「教育・文化・スポーツ産業と婦人の学習」『婦人白書1899』、ほるぷ出版1989.9
- (3) 企業の「文化戦略」をめぐる～『現代企業文化症候群』(『宣伝会議』別冊)、1984.10より～
- (4) スポーツ産業をめぐる(行政、経営実態、未来予測、etc.)～月刊『パースパイア』(スポーツビジネス研究所)より——()内は発行年月～
 - ① フィットネス行政と関連団体の動向
(1988. 5)
 - ② 労働省の企業フィットネス助成制度発表&厚生省、健康増進関連ビジネス指導室を設置
(1988. 7)
 - ③ 労働省の企業フィットネス助成制度
(1988. 8)
 - ④ 最新版フィットネスクラブの傾向分析
(1988.11)
 - ⑤ a RUSH of GOLF CLUB (1989. 2)
 - ⑥ 昨年オープン施設の分析と89オープン数予測
(1989. 4)
 - ⑦ 90年代型フィットネスクラブの開発コンセプトとドライゾーンの捉え方 (1989. 9)
 - ⑧ データにみる成功するクラブの条件
(1989.10)
 - ⑨ テニスコーチの〈期待〉と〈不安〉
(1989. 2)

ここでの資料選択は、現在、急速な展開を見せてきているスポーツ産業の実態をできる限り正確にとらえていこうとするための基礎的作業として位置づくものである。

スポーツ産業の実態については、これまでも

いくつかの先行研究があるが、スポーツ産業の全体像を大まかにはとらえているが、細部については不明瞭な点を残していた。

スポーツ産業の展開は、今後のスポーツの動向を占う上でも欠くことのできない大きな要素であるという点からするならば、スポーツ産業の実態についての基礎的データの収集は重要なことであろう。

上記の資料について若干の説明をすれば……

資料—(1)と資料—(2)の拙稿は、スポーツ産業（より広くは、教育・文化・スポーツ産業）の実態を、先行研究のなかにみるデータや統計をもとに描き出したものである。

このなかでは、スポーツ産業の全体的なデータもさることながら、個別業種や参加者個人に焦点を当てたデータ・統計を中心とした叙述を試みている。

資料—(3)と資料—(4)は、スポーツ産業に関する情報誌、刊行物は増加傾向にあるが、今回は、本研究室に収蔵されていない雑誌の記事を中心に、まとめてみた。

これらの記事（統計数値）の標本数、調査方法、調査対象、などについて不明瞭な点、あるいは「誘導」的な部分も散見され、必ずしも全てを鵜呑みにするわけにはいかないが、現在のスポーツ産業の現状をある程度まではとらえることができるであろう。また、逆に、「意図的」な調査であるが故に、その裏にあるスポーツ産業の“思惑”を読み取ることも可能であろう。

この作業を通じて導き出された今後の研究課題を一つだけあげれば、こうした既成の刊行物からの“借り物”のデータだけではなく、スポーツ産業に関する“自前の”データをつくり上げていくこと（調査）である。